

# 青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議  
第37・38号(合併号)  
平成25年11月12日(火)

## 第35回少年の主張県大会

～明るく前向きに、自分のできることから～

去る9月20日(金)、下郷町ふれあいセンターを会場として「第35回少年の主張福島県大会」が開催されました。台風の季節でしたが、当日は秋晴れの心地よい1日となり、モダンな庁舎が青空に映えていました。

今年度は県内38市町村の中学生14,643名から応募がありました。その中から本県民会議に120名が推薦され、第1次・第2次審査により決定された代表者16名が、日ごろ考えている自分の思いや願いを500名の聴衆を前に堂々と発表しました。



発表に先立ち、毎年「少年の主張」を聴くのを楽しみにしていらっしゃるという佐藤雄平福島県知事と開催地の湯田雄二下郷町長よりご挨拶と励ましの言葉をいただきました。



各発表者は、持ち時間(5分程度)の中で表現力豊かに自分の考えを述べました。会場では地元下郷中学校の全校生徒はじめたくさんの方が真剣にそれぞれの発表に耳を傾けていました。また、司会は下郷中学校3年生の佐藤友也さんと弓田和美さんが担当し、スムーズに進行してくれました。主張の内容は多岐にわたりましたが、どの発表からも「明るく前向きに、自分のできることから努力していこう」という意欲が伝わってきました。発表終了後は「郷人こめら」の皆さんによる「よさこい演舞」を鑑賞し会場が盛り上がりました。いよいよ審査結果発表。杉原陸夫審査委員長より最優秀賞1名、優秀賞5名、優良賞10名が発表された後、菅野芳美審査員から講評をいただきました。そして引き続き表彰式が行われました。入賞者の主張と講評の概要をご紹介します。(ホームページで全員の発表を聞くことができます)



<最優秀賞・優秀賞の主張概要紹介>

**最優秀賞** 心に響く「おもてなし」の心 加藤 茜さん(福島市立岳陽中学校3年)

修学旅行の宿舎(京都の旅館)で、あたたかい笑顔と優しいことは、そしてさりげない心遣いに深く感動し、「(宿としての)責任感のうえに、相手を笑顔にするための細やかな気遣いと自分の仕事への誇り」が「おもてなし」の基本ではないかと感じた。そして福島市で開催された「六魂祭」の折、来県者に渡す記念品にみんなで心をこめて「一言メッセージ」書いたところ、山口の人から中学生たちに対する感謝と励ましの手紙をいただき「おもてなし」のネットワークが広がったことを実感した。機械化・情報化の進む社会でも一番大事なものは「人の心」であり、「おもてなし」の姿勢を自分から広げていきたい。

**優秀賞** 今こそ「発信！」 遠藤穂乃佳さん(相馬市立向陽中学校3年)

父親の実家のある新地町は大好きな「小おなご」はじめ豊かな漁業の町だった。しかし、震災後は本来の仕事ができずに苦悩している叔父や漁業関係者の姿をまのあたりにして、「今こそ自分たち若者の出番ではないか。」と考えた。18年前の大震災からみごとに復興した阪神・淡路方面に修学旅行で行ったとき、津波や原発事故のことを自分たちの言葉で語り、相馬ののりを販売して大きな手ごたえを感じた。震災から3年目のこの時期、支援に甘えず、支援を超えて相馬の若者が今こそアピールし発信していかなければならない。

#### 優秀賞 Friends 北畑 愛叶さん(相馬市立中村第一中学校2年)

3年前、小学生のとき大震災を体験したが、アメリカの小学校から届いたプレゼントに衝撃を受け、震災でつぶれそうだった心がぽかぽかと温かくなった。アメリカの小学生たちが一生懸命お手伝いして得たお金の10ドル札がハート型に折られていたのだ。中学生になって英語弁論大会に出場することにしたのは、自分への挑戦だったがアメリカの小学生たちへの恩返し気持ちもあった。大会に向けた夏の猛練習の終わりにALTから「We are friends」と声をかけられたときの気持ちはハート型の10ドル札のときと同じだった。

#### 優秀賞 一日一步 岡田愛莉花さん(大熊町立大熊中学校3年)

大震災を思い出す夕焼けが嫌いだ。震災後の避難生活は本当に辛かった。会津若松市に避難することになったが、初めは不安だった。しかし献身的な支えを受けたことで、生きる希望と勇気、「人の心のあたたかさ」を感謝する心がよみがえってきた。そんな折、先生から「今度は私たちが元気や感謝の心を伝える時ではないか」と言われて頭を殴られた思いがした。このとき「支援に慣れて甘えてはいないか」ということに気づき、大熊中の生徒が意見を出し合って「大熊中劇団」を結成して仮設住宅や老人ホームを訪問して「元気と感謝の心」を伝えることにした。いつの日かきっと「夕焼けが大好き」といえるようになる日がくることを信じて。

#### 優秀賞 本当の強さ 室井奈々さん(会津若松市立河東中学校3年)

小学生のときいじめられていた。一見仲良しグループの中でのいじめだったので先生も気づかなかった。耐えられなくなって両親や先生に相談しようとしたが、やはりできなかった。しかし、「強くなろう」と決心した。その時から、いじめる人たちに思いつきの笑顔であいさつし、いやなときは笑顔ではっきりことわった。それ以来、いじめはなくなった。いじめる人は「強い」のではない。「本当の強さ」とは、傷つける力ではなく、すべてを包み込んで「守るための力」であり、そのための勇気を持つてみよう。

#### 優秀賞 二百五十兆分の一の「きょう」を生きる 邊見明奈さん(白河市立東中学校3年)

二百五十兆分の一とは、自分として生まれてくる確率。自分と他人を比べて自分が嫌いになったりするが、奇跡的な確率で生まれた自分を大切にしなければならない。祖先たちがつないだ命のルーの中にいるのだから。しかし、日本は自殺者が多く、悲しい事にその理由が一番多いのが「健康上の問題」だ。いじめや差別などで奇跡をつぶすことも許されない。生まれようとして胎児のままに亡くなった弟を思い、泣いたり落ち込んだりしたが、この経験から「医療関係の仕事」を目標に弟の分も命のバトンをつなげるため「きょう」一生懸命生きている。

<講評の要点をご紹介します>

#### 菅野 芳美様(福島民友新聞社若松支社長)

- ・ 自らが体験し考え抜いた「自分の言葉」で表現していた。
- ・ 新聞の取材の場合、出来るだけ多くの人から聞いたことを吟味し、自分で考え記事にする。
- ・ 自分の考えだけで決めつけず大勢の人の声に耳を傾ければ自分の考えの幅が広がる。

- ・ 新聞等活字を「読む」ことで知識・教養が深まり、心の成長が期待できる。

<表彰式を終えて～ほっとした笑顔～>



<発表者(発表順)と発表題名>

小幡桃永さん(西郷村立西郷第一中学校3年)	『人と人をつなぐ第一歩』
渡辺新貴さん(田村市立大越中学校3年)	『一人の地域住民として』
佐藤一喬さん(白河市立白河第二中学校3年)	『自分からの一歩』
添田奈津子さん(鏡石町立鏡石中学校)	『障害と共に生きる』
遠藤穂乃佳さん(相馬市立向陽中学校3年)	『今こそ「発信！」』
佐藤捺南子さん(伊達市立梁川中学校2年)	『言葉の重さについてー福島からの発信ー』
村上卓哉さん(小野町立浮金中学校3年)	『未来につなげるために』
北畑愛叶さん(相馬市立中村第一中学校2年)	『Friends』
木村雅哉さん(会津美里町立高田中学校3年)	『家事を始めよう』
岡田愛莉花さん(大熊町立大熊中学校3年)	『一日一歩』
室井奈々さん(会津若松市立河東中学校3年)	『本当の強さ』
加藤 茜さん(福島市立岳陽中学校3年)	『心に響く「おもてなし」の心』
青田龍斗さん(南相馬市立原町第二中学校2年)	『震災が僕らに教えたこと・そして未来へ』
岩並杏菜さん(いわき市立小川中学校3年)	『個性』
渡部裕太郎さん(下郷町立下郷中学校2年)	『人として』
邊見明奈さん(白河市立東中学校3年)	『二百五十兆分の一の「きょう」を生きる』

## 第36回福島県青少年健全育成推進大会

11月20日(水)13時30分より 福島県文化センター 小ホール

少年の主張、家庭の日作文コンクール最優秀者の発表があります！ぜひお出でください。

## 大人が変わるためのセミナー第2回講演会が開催されました

演題 「誇りある子ども・若者の成長と自立」

講師 進士 徹氏(NPOあぶくまネイチャースクールネットワーク理事長)

10月19日(土)に福島県男女共生センター(二本松市)で標記講演会が開催されました。

進士先生は、鮫川村で1995年から自然体験学校を主宰しています。2011年の大震災後は「震災に負けない凧と育つふくしまの子ども達」を合言葉に「ふくしまキッズ」委員長として積極的に取り組んでいらっしゃいます。実践に基く具体的なお話と映像資料はとても説得力がありました。多くの課題をかかえる福島だからこそ、心ゆたかで誇りと品格ある子どもたちを育てなければならない、という進士先生の思いが伝わってきました。そのために大人はどうあるべきかというヒントをたくさんいただきました。

- ふくしまキッズに参加した子ども達(親元を離れ、1週間~1ヶ月全国各地の受け入れ地区に出かけて現地の人たちや大学生ボランティアの支援を受けながらさまざまな活動体験)

→**生き抜く力の習得**(創意工夫、努力、生活力、感性、協調性、自主性、コミュニケーション力)

→**品格を持った青少年の育成**(親子でふくしまメッセージを書く、受け入れ地の人との交流、大学生ボランティア自身が心の成長)

- 大人が変わるための「気の6段活用」:子どもへの接し方~日常の積み重ねが大切!!

**その気→やる気→本気→根気→勇氣→元気・活気ある子ども**

※ 逆効果なのは..強要、押し付け、命令調、他との比較、口論の絶えない家庭

### <講演を聴いて(参加者の感想から)>

- 自然学校のつながりがふくしまキッズの展開につながったとわかりました。
- 自分自身が元気をいただきました。
- 実践を通して子どもたちの成長を応援している活動に感動した。
- 子どもの生き抜く力の習得について考えさせられた。
- 子どもと一緒に活動しているので全体が勉強になった。
- 「気」の活用法やまさかの時の5つのポイント、福島の子どものに必要なことなど様々なことに気づかせていただけました。私たちは「生きる力が育つ」ということで活動していますが、今後の福島をになう子どもたちの育成にたずさわる者として参考にさせていただきたいと思います。

